



未来への道標：合併とパンデミックを乗り越えた Pelindo の戦略

友好提携港国際ネットワーク (INAP) 会議



Pelindo はパンデミックを乗り越えて持続可能な事業を維持するため、回復力のある措置を実施

デジタルトランスフォーメーション  
デジタル化は、持続可能な運用、サービス品質の確保、顧客の利便性の向上を実現するための重要な成功要因として台頭

将来の労働力  
新型コロナウイルス感染症は、働き方 (リモート & フレキシブルワーク、デジタルワークプレイス) を変え、その他の変化 (戦略、計画、運用) を加速

安全、健康、福祉  
職場でのウイルス拡散を阻止するための新しい規範が確立。すべての従業員の安全、健康、福祉を優先

「ネクストノーマル」への戦略的転換  
新型コロナウイルス感染症は、市場、消費者、競争環境、Pelindo の基本戦略を再形成させた



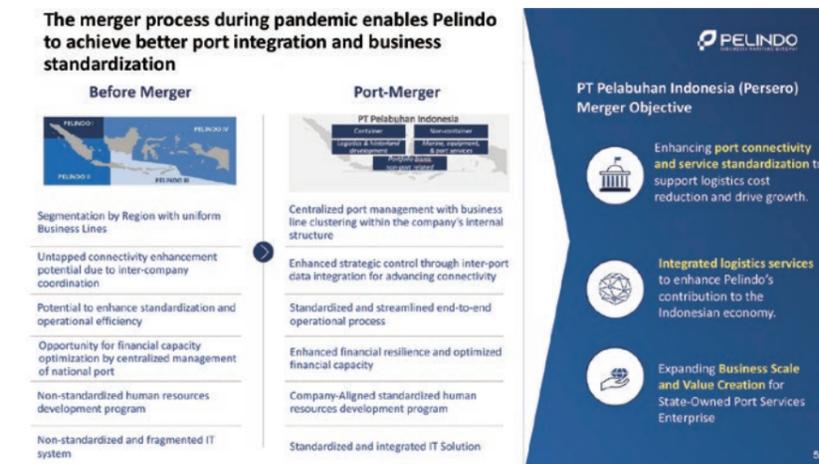
目次

パンデミック期間の回復力

Pelindo の合併

変革ロードマップ

今後の展望



パンデミック期間中の合併プロセスにより、Pelindo はワンランク上の港湾統合とビジネス標準化を実現可能に

合併前  
同一ビジネスラインによる地域別セグメンテーション  
企業間連携による未開拓の連結性強化の可能性  
標準化と運用効率性が向上する可能性  
国内港の集中管理による財政能力最適化の機会  
標準化されていない人材育成プログラム  
標準化されていない断片化された情報技術システム

港湾合併  
会社組織内の事業部門クラスタリングを通じた港湾管理の一元化  
連結性向上を目的とした港湾間データ統合による戦略的制御の強化  
標準化および合理化されたエンドツーエンドの運用プロセス  
財務レジリエンスの強化と財務能力の最適化  
全社統一標準人材育成プログラム  
標準化および統合された情報技術ソリューション

PT ペラプハン・インドネシア (Persero) 合併の目的

港湾連結性とサービスの標準化を強化して、物流コストの削減をサポートおよび成長を促進。

インドネシア経済への Pelindo の貢献を強化するための統合ロジスティクスサービス。

国有港湾サービス企業の事業規模拡大と価値創造



パンデミックがインドネシアの経済と海運業に与えた初期の影響

ADBの最新データ(2020年12月)によると、2020年のインドネシアの経済成長率は-2.2% (前年比)、2021年は4.5%と予測

海運部門は、運輸・倉庫分野の他部門と比較すると影響が最も小さい。



新しい企業体制を構築して、Pelindo は主要事業の能力向上を目指す

Pelindo 本社  
戦略事業計画立案者、コンセッションオーナー

Pelindo 地域事務所  
コーディネーター、統合整理

Pelindo 支社  
資産所有者、利害関係者の管理

サブホールディング会社  
事業所有者、収入創出者

子会社  
事業運営者

Pelindo's role has also evolved from port operator, expanding into end-to-end services provider and ecosystem integrator



Pelindo の役割も港湾運営者から、エンドツーエンドのサービス・プロバイダーおよびエコシステム・インテグレーターへと拡大

Inline with those, Pelindo has developed strategic directions and initiatives incorporated into a roadmap to become ecosystem integrator



役割の拡大に伴い、Pelindoはエコシステム・インテグレーターになるためのロードマップに戦略的方向性とイニシアチブを組み込み済み

2021 - 2022  
事業連携と統合

- 運用・商取引の標準化およびサービス品質向上を目的とした統合を通じて、統合後の事業連携を重視
- 事業成長に向けた統合投資
- 会社再編と統合文化の醸成

2023 - 2024  
事業拡大とパートナーシップ

- 戦略的パートナーシップによる事業開発
- 国内および国際海運との連携による海上連結性の向上
- 陸上物流業者との連携を通じた連結性の向上と物流エコシステムの構築

2025  
世界に通用する港湾エコシステム・インテグレーター

- PTペラバハン・インドネシア(Persero)の地域的および国際的な拡大計画
- 港湾におけるデジタル技術の導入とそれを支える事業の強化
- 工業団地との連携を通じた連結性向上支援と物流エコシステム強化によるモノの流通の改善

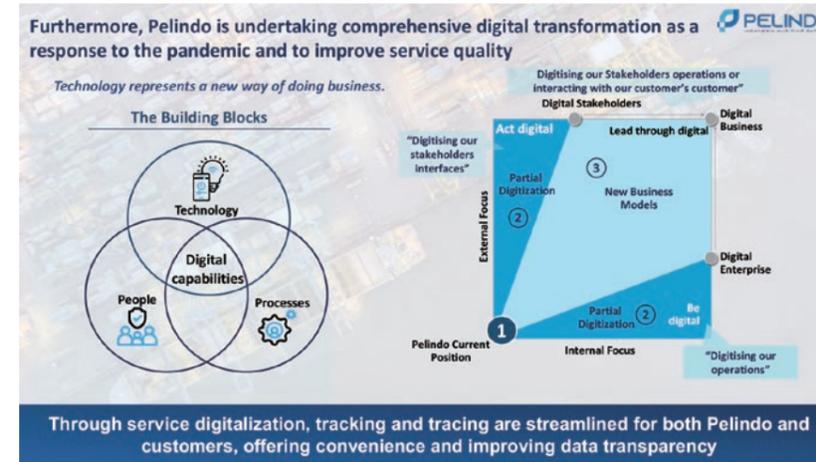


戦略的イニシアチブの一環としての標準化は、Pelindo、顧客、最終的にはエコシステムに大きなメリットとなる運用の変革によるメリット

Pelindo: 運用コスト効率の改善、潜在的な取扱輸送量の増加、能力と知識の向上

顧客: 港湾滞在・貨物停留の時間削減、停泊時間帯の最適化、船舶レンタル費用の節約

海洋エコシステム: 物流コスト削減への貢献、連結性支援



さらに、Pelindoはパンデミックへの対応とサービス品質の向上を目指して、包括的なデジタルトランスフォーメーションを実行中

テクノロジーは新しいビジネスのあり方を象徴

サービスのデジタル化を通じて、Pelindoおよび顧客の双方にとってトラッキングとトレーシングが合理化され、利便性とデータの透明性が向上



次のステップとして、Pelindoは事業の成長を促進する「事業拡大と戦略的パートナーシップ」に焦点

戦略的パートナーシップによる事業開発  
海上連結性の向上のための国内および国際海運との連携

陸上物流業者との連携を通じた連結性の向上と物流エコシステムの構築

とくに非コンテナ、海上、物流の部門において、事業規模を拡大し、地域のコンテナ分野で勝利することを目指し、的を絞った事業買収により市場を拡大

関連リスクを踏まえて最適な結果を出すために、最良のリソース開発を通じて戦略的パートナーシップを構築

船舶会社や事業取引先との連携を通じたハブアンドスポークネットワークの最適化  
統合輸送モードの提供における連携を通じた工業団地と港湾の開発と統合  
より効率的で無駄のない効果的な事業モデル実現のための事業統合および再編

市場浸透率  
既存市場で既存製品による成長を促進  
製品開発  
既存市場における有機的・無機的な新製品開発  
市場開発  
Pelindoグループ以外へのサービス有償化を拡大

ありがとうございました



2025年以降、Pelindoの焦点は、最終的に地域的および国際的な拡大を追求しながらエコシステムの連結性を強化すること  
 PTペラプハン・インドネシア (Persero) の地域的および国際的な拡大計画  
 港湾におけるデジタル技術の導入とそれを支える事業の強化  
 工業団地との連携を通じた連結性向上支援と物流エコシステム強化によるモノの流通の改善  
 港湾事業の地域的および国際的な拡大  
 ・輸送量と連結性を強化するため地域の港湾を拡張  
 ・有機的開発、株式保有、M&Aによる拡大戦略が可能  
 後背地との協力と統合  
 ・港湾と工業団地の統合促進  
 ・港湾の連結性を高め、交通渋滞を緩和し、より効率的な物流サービスを実現  
 国内海運業者との連携  
 ・国内海運業者との連携による輸送量と連結性の強化  
 ・情報共有、共同企画、投資によるサービスの信頼性向上、運用パフォーマンス向上、コスト削減  
 港湾・物流におけるデジタル技術の採用拡大  
 ・データ分析プラットフォームを活用してターミナル内の事業開発および統合の可能性を特定し、物流プラットフォームを利用してエンドツーエンドのサービスを提供  
 港湾における持続可能性の取り組みを実施  
 ・事務所や作業エリアの新エネルギー源として太陽光発電を活用、化石燃料に換えて電動機器を導入  
 ・マングローブや樹木の植林など港湾近隣の緑化活動を推進  
 機器製造業者とのパートナーシップ構築  
 ・投資コストの削減と調達安定性の向上  
 ・製造業者との合意を追求、現地能力を開発

Pelindoは能力強化・容量拡大のための戦略的事業実施も約束

3つの戦略的事業開発

ターミナル開発

工業団地開発

観光拠点開発

